

道徳

「指導者用デジタル教材」を用いた授業展開例

小学校 第3学年 道徳科 学習指導案

埼玉県川口市立木曽呂小学校
教諭 渡辺 真

主題名 きまりを守ることの意味

教材名 新聞係（1時間）

内容項目 C 規則の尊重

本時のねらい 新聞作りのきまりについて話し合うことをとおして、きまりを守ることの大切さに対する考えを深め、きまりを大切にしようとする判断力を育てる。

指導時期 6月下旬

指導者用デジタル教材活用の意図・目的

1 朗読音声の活用

道徳を学習する際に教師が範読する場面が多いが、「指導者用デジタル教材」の朗読音声を活用することで、児童が朗読を聞く様子を観察したり、その様子を指導に生かしたりすることができる。

2 「思考ツール」の活用

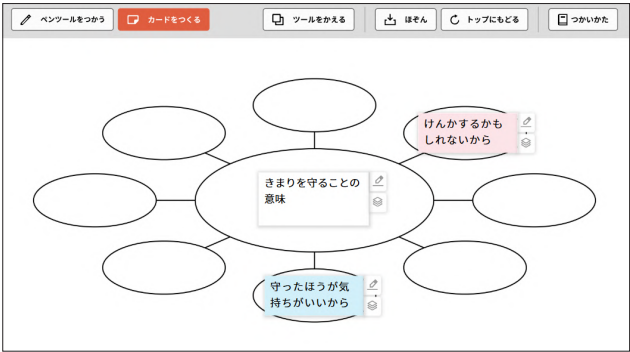
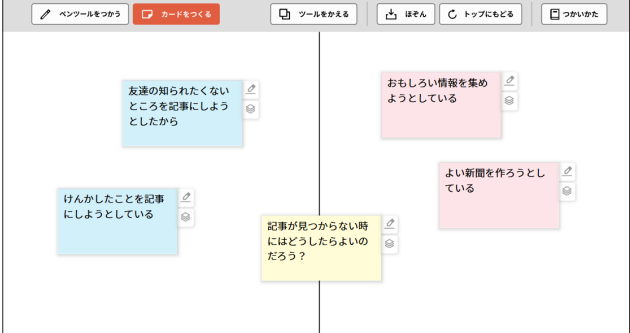
「指導者用デジタル教材」の中には豊富な「思考ツール」が入っている。この「思考ツール」を活用することで個人の考えをまとめたり、その考えを全体で共有したりすることが容易にできるようになる。またデジタルのよさとして、以前のものと比較することもできる。

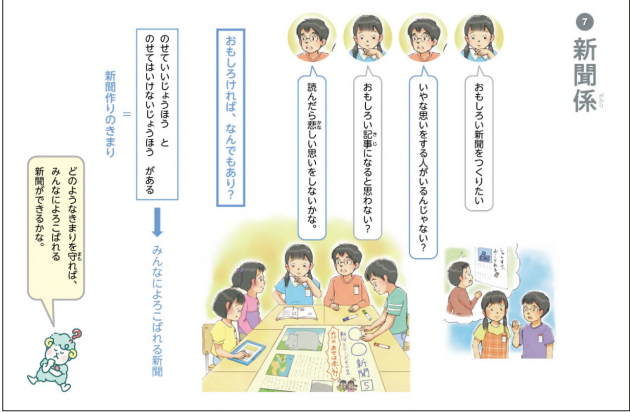
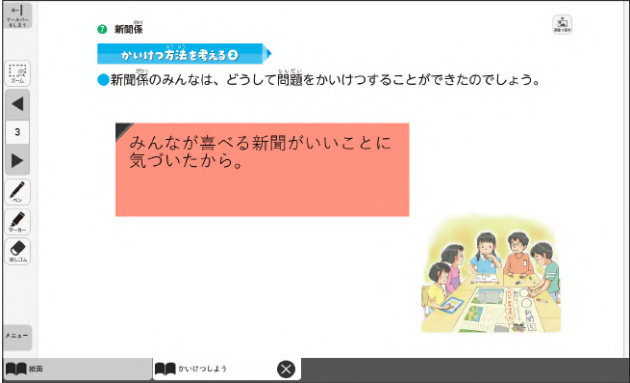
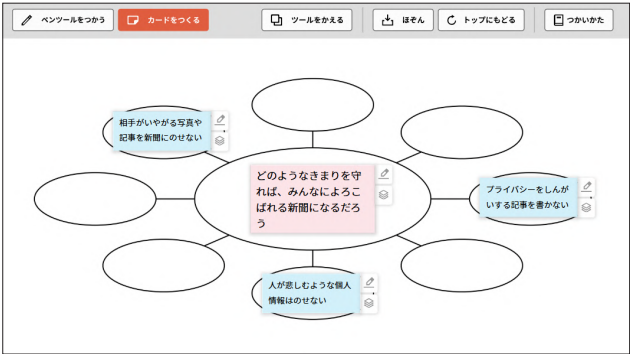
3 資料の活用

「指導者用デジタル教材」の二次元コードをクリックすることで、さまざまな資料にアクセスすることができる。学習の終末で活用したり、本時の学習が終わった後に他教科と関連づけて活用したりすることもできる。

本時の展開

	活動内容	デジタル教材の活用
導入	「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。	

	活動内容	デジタル教材の活用
導入	1. きまりを守ることの意味について考える。 T：きまりを守ることの意味について考えましょう。 ◎：けんかになるかもしれないから。 ◎：守ったほうが気持ちよく過ごせるから。	●「思考ツール」を開き、きまりを守ることの意味について「ウェビング」に整理していく。  ●「指導者用デジタル教材」を活用して『新聞係』を読む前に、教材のあらすじを確認する。 
	2. 『新聞係』を読んで、きまりを守ることの大切さについて考える。 T：新聞係の問題点はどこにあるか、考えて発表しましょう。 ◎：おもしろければ、なんでも書いていいと思っているところ。 ◎：楽しければ、どんな記事でもかまわないと考えたところ。	●「指導者用デジタル教材」のメニューから朗読音声を再生して聞く。  ●「思考ツール」の中から「たて線」を選択し、新聞係の問題点や、よい点、疑問点などをカードの色を指定するなどして自由にまとめさせる。個人でまとめた問題点や疑問点などは、学習支援ソフトなどを活用して全体で共有していく。 
展開	T：新聞係の目的はなんでしょう。 ◎：みんなに知ってほしいことを伝えたい。 ◎：みんなが喜ぶ情報を伝えたい。	

	活動内容	デジタル教材の活用
展開	T：新聞係のみんなは、どうして問題を解決することができたのでしょうか。 C：やっぱりみんなが喜べる新聞がいいことに気づいたから。 C：新聞作りのルールを守って作ったほうが楽しいから。	●「新聞係のみんなは、どうして問題を解決することができたのでしょうか。」という問いに対して考えをまとめる。その際に「考えるシート」を考えるための手立てとして児童に活用させてもよい。また、考えをまとめる際には、「学習者用デジタル教材」に用意されているPDFのワークシートを活用して、ペンツールで書き込むなど、学習者が選択することができる。  ↑考えるシート  ↑てびき ●「思考ツール」を開き、「どのようなきまりを守れば、みんなに喜ばれる新聞ができるか」について「ウェビング」に整理していく。整理できたら導入で使った「ウェビング」と比較し、共通する点について考えていく。 
	T：どのようなきまりを守れば、みんなに喜ばれる新聞ができるか、考えて話し合いました。 C：人が悲しむような個人情報載せない。 C：プライバシーを侵害するような記事を書かない。 C：相手が嫌がる写真や記事を新聞に載せない。	

	活動内容	デジタル教材の活用
まとめ	3. 本時の学習を振り返る。 T：今日学んだことは、学校生活のどのような場面で生かすことができるでしょう。 C：新聞作りにかぎらず、廊下を走らないなどのきまりを守ることで、みんなが楽しい学校生活を送れる。 T：今日の学習で学んだことを振り返りましょう。	●文部科学省ウェブサイト 「情報化社会の新たな問題を考えるための教材」を活用し、情報モラルについて学級の実態に応じて考えさせる。  「学習者用デジタル教材」の「ワークシート」を活用する。普段使用している学習支援ソフトウェアで振り返りを記入させてもよい。

指導者用デジタル教材を活用したことで得られた効果

- 「指導者用デジタル教材」の朗読音声を再生して児童に聞かせることで、教師は資料の朗読を聞いている児童の様子をじっくりと観察できるようになる。しっかり聞いている児童、疑問をもっている様子の児童などさまざまな様子を見ておくことで、授業の中でも生かしていくことができる。
- 「思考ツール」の中にある「たて線」を使用することで、児童からさまざまな意見を出すことができる。その際に、よかったところ、よくないところなど色を分けて整理していくことで、より視覚的に捉えやすくなる。個人でまとめたカードを全体場で集約する際には「学習支援ソフトウェア」などを活用することで全体での共有もやすくなる。
- 「指導者用デジタル教材」には、「ペンツール」や「考えるシート」、「ワークシート」など児童が自分の学習に合わせて選択できるコンテンツが豊富に収録されている。そのためさまざまな形で児童は自分の考えをアウトプットすることができるようになる。教師も事前にさまざまな準備をしなくてもよくなる。
- 「思考ツール」の「ウェビング」を活用して、導入で聞いたきまりについての考えと展開で聞いた「どのようなきまりを守れば、みんなに喜ばれる新聞ができるか」の考えを比較し、共通する部分を考えていくようにする。二つの比較はタブレットを使用しているため、すぐに行うことができる。二つの「きまり」についての考えを比較することで、内容項目「規則の尊重」についての理解をより深めることができる。
- 「指導者用デジタル教材」の資料から、「文部科学省ウェブサイト」にアクセスし、学級の実態に応じて動画やワークシートなどを活用し、本時の学習をより充実したものにする。他の教科との関連も図って活用することができるため、道徳の学習と他教科との関連づけをすることができる。